

令和2年度第1回総合事業サービスワーキンググループにおける主なご意見

総合事業サービスを円滑に運営できるよう、令和2年10月23日に開催した、「総合事業サービスワーキンググループ」において、委員の皆様よりいただいた主な意見は以下の通り。

① 介護予防・日常生活支援総合事業の実施状況

●コロナ禍での各サービスの状況

- ・デイサービスの利用を控えている方が多い。特に、要支援者等で予防のため運動に特化したサービスを利用していた方が控えていた。この中には、本来デイサービスを利用しなくてもよかった方もいたようだが、久しぶりに来ると身体の様子が変わっている方もいて、人と会って身体を動かすことの影響の大きさを実感している。一方、食事や入浴、レスパイトが目的の方は継続していた。
- ・本人よりも家族が過度に感染を恐れている。
- ・ヘルプサービスのニーズはあるが、ヘルパー自身も高齢のため、感染を恐れて従事できなくなったケースがあった。
- ・この機会にパソコン等の機器をすべて更新し、オンライン面会などの体制を整えたところ、利用者やその家族に喜ばれただけでなく、業務効率も上がった。人材確保には事務負担の軽減も重要。

●KOBESHINIA元気ポイント制度

- ・登録者数と参加施設数が少ないが、全市の実績か。
- （事務局）新型コロナウイルス感染症の影響で当初計画よりも規模を縮小して10月からスタートしているが、今後感染状況を注視しながら徐々に広報を登録者、参加施設ともに拡大していきたい。

●ケアマネジメント支援体制の強化

- ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実質9月からリハビリ専門職による同行支援などを開始したばかりのため十分周知されていないが、重要な取り組みだと思う。適正なサービス利用となるよう、見極める仕組みは必要。

② 第8期介護保険事業計画以降の円滑な運営に向けて

- ・国が示す総合事業の事業費の上限額を超えてしまうと、保険料や一般財源での負担が必要になる。事業費見込の推移を踏まえた対応が必要だろう。
 - ・デイサービスは、利用者のニーズやフレイルの状態を注視し、他都市の状況なども勘案し、利用の仕方を含めた検討が必要だろう。
 - ・新型コロナウイルス感染症によるデイサービスの利用者の減は、持ち直してきてはいるが、経営への影響が大きい。
 - ・介護業界全体で担い手が不足しているので、新型コロナウイルス感染症の影響で解雇されてしまった接客業の方など、人と関わることが好きな方をなんとか業界で受け入れたい。訪問系のサービスは慣れていないとハードルが高いが、仕事内容がわかるよう、先輩ヘルパーらのインタビュー動画などを活用し、官民あげて人材を確保してはどうか。ハローワークなどとも連携して若年層を取り込んでどうか。
 - ・第8期介護保険事業計画中に、利用者負担を含めたサービス内容を検討する。
- （事務局）新型コロナウイルス感染症の影響を注視しつつ、他都市の状況も調べ、令和3年度以降にご意見を伺いながら検討していきたい。